

自分たちで作った課題で学習を進めよう

－第5学年人物の結び付きを「大造じいさんとガン」－

羽 場 邦 子

1 高学年でめざす課題解決的な学習

本校の研究テーマ「自立に向かう子ども」で、なぜ、課題解決的な学習に取り組んでいるかは、すでに、国語科の考え方の中で述べている。高学年の子どもたちは、教材に対して自分なりの考えをもっている。共通課題設定の場では、一人一人が作った課題の中からどれを共通のものにするのがよいか考えを出し合い、共通課題を設定することができる。これらの課題を解決する方法の多くは、子どもとともに考えていくが、教師が提示する場合もある。子ども自身で単元全体を見通して計画を立てることは、教材によって難しいものもあるからである。課題設定や解決方法が適切なものであったかどうかを学習の中で振り返り、子ども自身が検討していくことで、主体的な学習に向かうようにしていきたいと考える。本稿では文学的文章を取り上げ、課題設定やその解決方法が読みを深めるのに有効であったかどうかを、実践事例をもとに検討していきたい。

2 実践事例－人物の結び付きを「大造じいさんとガン」－（第5学年）

(1) 単元について

本単元は、残雪というガンの頭領が、仲間のために命をかけて戦う姿と、その残雪と戦う大造じいさんの心情の変化を描いている。大造じいさんは、狩人の知恵と経験をもつ。一方、残雪は、ガンの群れを率いる頭領としての統率力と人間という敵から身を守る知恵をもつ。「今年こそ」「今年こそ」とガン狩りに執念を燃やす大造じいさんの計画を見事に見破る残雪。この両者の知恵比べを前書きと4場面（起承転結）に分け、四年間にわたり描いている。子どもたちは、場面を追うごとにこの知恵比べに引き込まれていくであろう。文中にある細かい心理描写や美しい情景描写を取り上げながら、残雪と対立関係にあった大造じいさんの心情が、憎しみから感動へ変化していく様子を読み取り、主題について考えさせたい。また、ノートに自分なりの考えをまとめたうえで一斉学習を行い、一人一人の考えをより確かなものにさせていきたい。

(2) 指導目標

- ① 登場人物の結び付きや気持ちの変化を読み取ることができるようにする。
- ② 自分の考えと友達のことを比べて読み深め、考えたことを話したり書いたりして感想をもつことができるようにする。

(3) 指導内容と計画（全13時間）

第一次 全文を読んで課題を作り、課題解決の見通しをもつ。…………… 5時間
第二次 情景描写や心理描写をてがかりに登場人物の結び付きや気持ちの変化を読み取る。 6時間
第三次 主題について考え、学習のまとめをする。…………… 2時間

(4) 学習の概要（国語科、文学的文章「学習のステップ」参照）

① 出会う

題名読みの後、全文を読んで感想を書いた。整理すると右のようになった。残雪とハヤブサが戦う場面に着目している子どもが多かった。

- | | |
|---|--------------------------|
| A | 残雪のすばらしさにきづいている…24名 |
| B | 大造じいさんの気持ちの変化に気づいている…19名 |
| C | 両者の関係を考えている…5名 |

書き込みの観点としては、子どもたちの感想を取り上げ「大造じいさんが残雪を捕らえようとする気持ちが表されているところ、残雪の素晴らしさが表されているところ」について、疑問、感想、意見を記述するよう指示した。書き込まれたものを読むと、残雪が大造じいさんの計画を見破る場面やハヤブサと対決する場面、4場面での大造じいさんが飛び去るガンに呼びかける会話文に心を寄せていることが分かった。子どもたちは、主題にかかわる場面に気づいているように思われた。しかし、その気づきは、思いつきや断片的なとらえ方に留まっている。

②見通す

《課題を作る》

書き込みの中から、みんなで考え合いたい課題をカードに書く。



出し合った課題を観点別に分類する。(観点はアイウエの4点)

ア前書き部分(1名)…「初めにこの文章の紹介がしてあるのはなぜか。」

イ大造じいさん(12名)…「大造じいさんは、なぜ残雪をうたずにじゅうを下ろしたのか。」

「残雪はりこうな鳥であると言いながら、なぜ、たかが鳥だと思ったのか。」など、各場面での課題(9名)

「大造じいさんの気持ちの移り変わりを考えよう。」など、全体にかかわる課題(2名)

「青くすんだ……、東の空が……は気持ちを表しているのか。他にもそういうところはあるか。」情景描写からの課題(1名)

ウ残雪(6名)…「残雪は、なぜ、自分の命までかけて仲間を助けたのか。」など、各場面での課題(6名)

エ大造じいさんと残雪(4名)…「大造じいさんと残雪はおたがいをどう思っているのか。」など、全体にかかわる課題(4名)



分類した課題から共通課題を決める。

○整理するときの観点として、書き込みの際の指示と同様に、「大造じいさんが残雪を捕らえようとする気持ちを考えることができるもの」「残雪の素晴らしさを考えることができるもの」に加えて、「全体を通して考えることができるもの」を挙げた。

○整理した課題を、学習の流れに沿って並べ変えた。

◎前書き部分…1つ ◎1場面…3つ、2場面…1つ、3場面…4つ、4場面…2つ

◎全体を通して…2つ

《解決の方法を考える》

共通課題は決まったものの、子どもたちから学習方法についての意見が出にくかった。ある子どもが、「本文に(～らしく)という言葉が多く使われている。だから、大造じいさんの立場から書いてある。」と発言した。そこで、全体を通しての共通課題である「大造じいさんの気持ちの移り

変わり考えよう。」を教師側から取り上げ、「大造じいさんの気持ちが分かるてがかりとなるものはなんだろう。」と問いかけた。出でてきたものの1つは、課題作りの中で出された情景描写、もう一つは、大造じいさんの残雪に対する呼び方であった。3つ目は、教師から提案した。それは、大造じいさんの行動と大造じいさんの視点からみた残雪の行動を比べて、それらの行動に伴う大造じいさんの気持ちをまとめることである。

話し合いで決定した学習方法は次のようなものである。学習方法①～③については、教室にカードで掲示した。また、④のノートにまとめる際、①～③からの気づきも記述することにした。

- 学習方法① 大造じいさんの立場から読んでいこう。
 学習方法② 大造じいさんの気持ちが表現されている情景描写を見つけよう。
 学習方法③ 大造じいさんの残雪に対する呼び方の変化を見つけよう。
 学習方法④ 大造じいさんと残雪の行動を比べ気持ちの移り変わりをノートにまとめよう。

③解く

《学習前のアンケート》

各場面での学習を行う前に、いくつか子どもの考えを書かせた。その中で2点を挙げる。

A 大造じいさんの残雪に対する気持ちは、どこでどのように変わっただろう。

どこで

- 残雪とハヤブサの戦い 25名
- 戦うにつれて 2名
- じたばたさわがなかった 1名
- 分からない 2名
- 記述なし 4名

どのように

- 残雪に感動（えらいやつだ） 8名
- ライバル（仲間、友達みたい） 9名
- 悪いことをしたな 3名
- ガンの大群にいないといけない鳥 1名
- 記述なし 13名

B 主題は何か。

- 大造じいさんと残雪の気持ちのつながり（人間と鳥の友情など） 9名
- 大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化 6名
- 仲間を守る（仲間思い） 5名
- 人を助ける大切さ 3名
- 何事も正々堂々とやる 1名
- 分からない 10名

A 残雪とハヤブサの戦いの場面で気持ちの変化があると25名が答えた。これは、書き込みの反応と重なっている。しかし、「どのように」については、記述なしの者が多い。学習では、「どのように」についての読み深めが必要であると考えた。

B 大造じいさんと残雪のつながりに気づいているが、作品の内容の読み取りに留まっており、主題のとらえ方としては十分でない。

単元全体の学習後、同じ項目で考えを書かせ、読みが深まったかどうかを分析することにした。

《課題解決場面》…「残雪とハヤブサの戦いから。大造じいさんの気持ちの変化を読む」…

本時は、学習のアンケートで大造じいさんの気持ちが変わったと答えた場面である。残雪の素晴らしさを感じている子どもたちは、この場面だけ大造じいさんの立場だけではなく残雪の側に立った課題（C・D）を共通課題に選んでいる。本時は、2単位時間を要した。本時学習前に、子どもたちは自分なりの読みをノートにまとめている。

| 主 な 発 問 | 主 な 児 童 の 反 応 | 考 察 |
|---|--|--|
| T学習方法と4つの課題を提示する。(カードによる) | (自分のまとめたノートを読み返す) C 本時の場面を音読する。(リレー読み) | ※学習の最初に発言した子どもの学習方法から、学習の流れを組み立てることにした。本時は情景描写からであった。 |
| 課題A 「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」と言った大造じいさんは、どんな気持ちだろう。 | | |
| TAの課題について話し合います。 | C1「今年もまた」だから3年目の戦い。 C2「東の空が真っ赤に燃えて、朝がきました」は、やるぞという気持ち。 C3「青くすんだ空を見上げながらにっこりしました」も同じ気持ち。 C4「美しい朝の空を真一文字に横切って」は、残雪の自信が分かる。 C5「美しい……」は嵐の前の静けさだと思う。 C6「青くすんだ」雲がないのはじゃまがないから、1対1で正々堂々と戦える。 | ○C1～7までは、学習方法②の情景描写に着目して発言している。大造じいさんの残雪と戦おうとする気持ちに気づいている。また、ガンの飛ぶ様子から残雪の気持ちを想像している。 |
| T大造じいさんの作戦は、正々堂々だろうか。 | C7「青くすんだ」は、正々堂々ではない。大造じいさんの心に迷いが無い。2人の戦いは知恵比べ。 C8もし正々堂々だったら、おとりは使わない。 C9「冷え冷えとするじゅう身をぎゅっとにぎりしめて、しばらく目をつぶって」やるぞという気持ち。 C10付け足して、失敗は許されないという緊張感。 C11付け足して、自分の作戦を考えている。作戦が大丈夫かどうかという不安感。 | ○C6で「正々堂々」が出されたが、おとりを使う大造じいさんの作戦は、ひきょうなやり方だととらえている子どもが多い。 |
| T大造じいさんの気持ちになって二つの会話文を読んでみよう。 | C12「さあ、今日こそあの残雪めにひとあわふかせてやるぞ」はやる気。 (「さあ、」から始まる二つの会話文を音読する。) | ○C9～12は、大造じいさんの心理描写に目を向け、気持ちを発言している。情景描写だけに着目した発言より、大造じいさんの気持ちを深く理解している。 |
| 課題B 大造じいさんは、なぜ、残雪をうたずに再びじゅうを下ろしたのか。 | | |
| T今年こそは……という大造じいさんの気持ちを考えました。なぜ、残雪をうたずにじゅうを下ろしたのか考えましょう。 | C13「ただ救わねばならぬ仲間の姿があるだけ」の所で、大造じいさんは、 <u>残雪の姿に心を打たれた。</u> C14「残雪の目には人間もハヤブサもありませんでした……」2年間も飼われていたおとりのガンを仲間だと思っているから、じゅうを下ろした。 C15残雪が正々堂々と戦っているから、ひきょうな手を使いたくない。 | ○授業記録には書いていないが、「再び」と書いてあるから、初めはいつだろうと疑問を投げかけた子どもがいた。みんなで探した。結局、2場面で危険を感じた残雪が沼地の端に着陸した所だと、意見が一致した。2場面では「仕方なく」この場面では、「自分の意志で」という気づきであった。 |
| Tみんなが注目したのは「残雪の……ただ救わねばならぬ仲間の姿」だね。「救わなければならない」と「救わねばならぬ」とどう違うだろう。 | C16「救わねばならぬ」の方が、どうしても救わないといけないう気持ち強い。 C17残雪の気持ちが、強く読む人に伝わる。 | ○課題Bでの大造じいさんがひきょうであ |
| 課題C 残雪は、なぜ、命までかけて仲間を助けたのか。 | | |
| | | C18残雪な頭領だから救わなければならない。 C19おとりのガンでも仲間だから、 <u>残雪は必死だった。</u> |

課題D 残雪は、なぜ、大造じいさんをおそれず逃げなかったのか。

T 次の課題を考えよう。課題Cや大造じいさんの気持ちにつながると思うよ。

T 「最期の時」と「いげん」の言を詳しく説明して。

T 残雪に対する呼び方の変化から考えよう。

T 大造じいさんは、強く心をうたれたんだね。残雪に対する呼び方にも表れていました。残雪の戦いの様子を詳しくみてみよう。

T 「白い羽毛」と「あかつき」「くれない」の色を考えよう。

T 「……が、……」と「・が、……」の表現の違いは。

T 大造じいさんは、残雪がハヤブサと戦っている姿や堂々とした姿に強く心をうたれたのですね。

C20 「最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました」の所で、仲間を助けたから自分はどうなってもよい。仲間を助けた満足感がある。もう生きることはできないと覚悟できている。

C21 おとりのガンを助けたから頭領らしい仕事をしたと思っている。頭領としてのプライドがある。

C22 いげんは、プライド。日本語でいうと人に尊敬とおそれの気持ちを起こさせるりっぱな行為。大造じいさんは、残雪に尊敬の気持ちをもっている。

C23 最期の時は、死に際。最後は、何かがあってまた始まる。最期は、もう一生の終わりということ。

C24 「鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました」と大造じいさんにはそう見えた。

C25 「あの残雪め」ではいまましいやつ。あいつはじゃまをすと思っている。

C26 「鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度」では見直している。

C27 「ただの鳥に対してのような気がしませんでした」は、強く心をうたれている。

C28 「ぱっと白い羽毛があかつきの空に光って散りました」

C29 「いきなり、力いっぱい」

C30 「さっと大きなかげ」は力強い様子。

C30 「地上ではげしく」は絶対負けたくない。残りの力をふりしぼって。

C31 「むねの辺りをくれないにそめて」のくれないは赤い血の色。

C 赤と白。

C32 「ぱっぱっと羽が白い花卉のようにすんだ空に散りました」だから、ハヤブサの攻撃はすごい。

C33 「花卉のように」だから、羽がぱらぱらと散る。残雪がおしまいのような表現だと思う。

C34 「第二のおそろしい敵」を「正面からにらみつけました」で、残雪はすごい。

C35 「。」があるほうが、「しかし」に近い。

C36 「。」は、間がある。「,」は間がない。

C37 「。」の方が気持ちが対比的。

(ワークシートに振り返りを書く。)

- 課題について・学習方法について
- 3場面での大造じいさんの気持ちの変化について

るか正々堂々であるかの問題は、課題C Dで理解できた。

○課題C・Dで、子どもたちは、残雪の側に立っている。学習方法①とずれた課題であった。大造じいさんの目からの残雪像という視点を明確にした課題を作る必要があった。例えば「大造じいさんは、なぜ、強く心をうたれたのか」という課題も考えられる。

○大造じいさんの残雪に対する呼び方の変化に気づき、そこから、残雪に対する気持ちの変化も理解している。学習方法③は、子どもたちに分かりやすい方法であった。

○ハヤブサと残雪の戦いの様子から、その激しさを想像している。C33の「花卉のように」から散る様子を想像し、残雪の様子を考えた発言は大切にしたい。

○「白い羽毛とあかつきの光」「むねの辺りをくれないにそめて」の色の対比は情景を想像することができる。

○「救わねばならぬ」「……が、」の表現の仕方を教師から考えさせた。作者の工夫に気づかせたかったからである。次の学習につながればよいと考えた。

※本時の子どもの振り返りを次頁に載せる。

－ 3 場面の学習の振り返りから（子どものワークシートより）－
 本時での子どもたちの振り返りをまとめると、次のようになった。

◎A, B, C, Dの4つの課題で深め合う学習ができたか。

アできた…32名

- 大造じいさんの残雪に対する気持ちが変わっていくのがよく分かった。
- 大造じいさんの気持ちが一番表れているのが3場面だった。
- Cの課題がよかった。

イできなかった…6名

- 課題が大造じいさんと残雪と分かれていたので、残雪を考えているとき頭が混乱した。
- 発言がばらばらで、それほどできなかった。
- できたようなできなかったようなよく分からない。

◎学習方法はよかったか。

アよかった…36名

- ノートにまとめるとよく分かる。書くのが楽しい。
- 残雪の呼び方の変化を比べて、大造じいさんの気持ちがよく分かった。
- 情景描写がたくさん見つかった。
- 大造じいさんが何かをするのは、全て残雪の行動によるものだから大変大切でいい。
- 4場面の学習にも使える。

イよくなかった…2名

- 残雪とハヤブサの行動が多すぎた。

課題についてよくなかったという者が6名いた。課題が多いことや大造じいさんと残雪の両者の立場から考えなければならぬことによると考えられる。学習方法では、よかった理由として、情景描写を見つけることやノートにまとめることが挙げられた。

《単元全体の学習後のアンケート》

課題解決を通して、子どもたちの読みがどのように変わったかを、ワークシートに記述させた。学習前のアンケートと同様に、次の2点を挙げる。

A 大造じいさんの残雪に対する気持ちは、どこでどのように変わったか。

どこで

- 仲間をすくわねばならない姿 31名
- 最期の時を感じて 3名
- 正面からにらみつけた 2名
- 再びじゅうを下ろした 2名

どのように

- 英雄、尊敬している（えらいやつ） 23名
- よきライバル（正々堂々と戦いたい） 14名
- 仲間を思いやる心 1名

B 主題は何か。

- 仲間や友達への思いやり、大切さ 15名
- 人と人の心の結び付き 13名
- 大造じいさんの心の変化、優しさ 5名
- 残雪の優しさと勇氣 4名
- 苦勞してもいいことがある 1名

- 人間だれでも意見の違うことはあるけれど、人と人をつなぐことを大切にしていきたい。
- 仲間を思いやるということは大切なこと。
- 今の人間社会は利己的な人（ほくも含む）が多い。もっと信頼関係を深めることが大事。

○大造じいさんが体験したガンの英雄との堂々とした戦いの中での大造じいさんと残雪の優しさを伝えたい。○「類は友を呼ぶ」だね。残雪と大造じいさんは、友達のようなだよ。……

学習前と学習後と比較すると、A, Bとも「わからない、記述なし」がなくなった。Aの「どこで」に対して、「このときだ」と、気持ちの変化を自分なりに明確に記述している。また「どのよ

うに」でも、「英雄、尊敬、ライバル」という言葉ではっきりと記述できている。Bの主題は、学習前の内容の読み取りから、自分たちの生活を振り返って、友達、もっと広く言えば人と人とのつながりに目を向けることができている。これは、学習によって読み深め、作品と自分とが対話していると考えられる。

④まとめる

単元全体を振り返って、学習の仕方についてワークシートにより自己評価させた。

◎作った課題は、学習を深めるのによかったか。

よかった 38名

- 1つの疑問も残さない。みんなの作った課題から他のことにもつながる。
- 課題を続けると、椋さんの言いたかったことがよく分かった。
- 何度も言うようだけど、課題があってこそ話し合いができて、話し合いが深まる。
- ぼくの課題は、採用してもらえなかったけれど、みんな知恵をふりしぼってどんどん解決してよかった。

◎学習方法はよかったか。

アよかった 36名

- 学習方法①…大造じいさんの気持ちの変化を読むのは、何回も本文を読まないといけない。
- 学習方法②…情景描写はヒントが隠されたクイズみたいで楽しい。気持ちが分かった。
情景描写は難しいと思っていたけれど、調べてみると重要なことが分かる。
- 学習方法③…今まで呼び方に注意しないで読んでいたけどよく分かった。
- 学習方法④…ノートを見たら、発表するときに迷わなくてよい。
難しい課題でもまとめていくと、初めに比べてだんだんよく分かった。

イよくなかった 2名

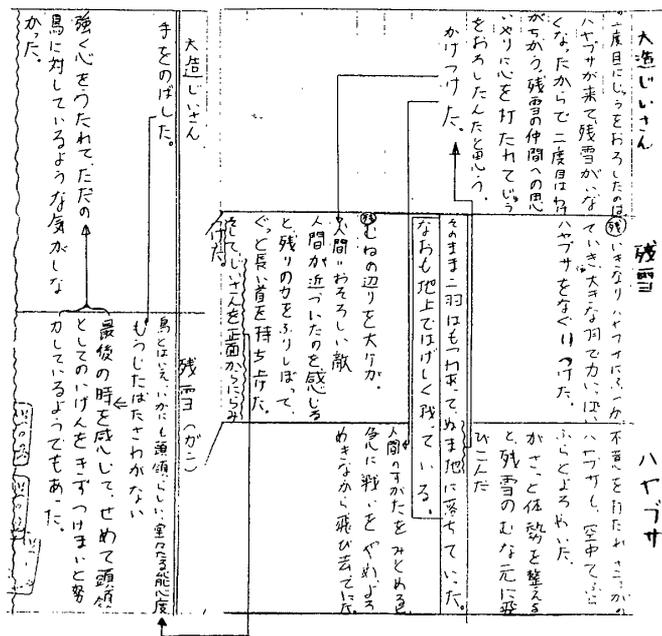
- 学習方法④…行動を比べるより、大事な言葉を抜き出したほうがよい。
ノートのまとめ方が難しくよく分からなかった。

作った課題について満足しているようだ。

各場面では、「これは必要なかったね」と言って、共通課題を削除したこともある。課題があるから話し合えるという子どもの記述は、自分たちで考えているということであろう。学習方法については、②、③が支持を得た。情景描写に新鮮な驚きと意欲を見せた。学習のまとめでは、これまでの学習から選んで、大造じいさんの気持ちの変化をワークシートにまとめた。

子どもの選んだ方法

| | | |
|---|----------|-----|
| A | 情景描写から | 16名 |
| B | 残雪の呼び方から | 18名 |
| C | 残雪への行動から | 1名 |
| D | A+B | 2名 |
| E | A+C | 1名 |



(ノート例)

3 考 察

(1) 作った課題は、読みを深めるのに有効であったか。

一人一人の課題では、大造じいさんの立場からのものが多く出された。共通課題を作る段階で、残雪の側からのものは削除された。しかし、3場面のハヤブサとの戦いは、子どもたちにとって印象深く、結局、3場面のみ「残雪は……」という課題が残された。課題解決場面の授業記録では、やはり、混乱が起きている。子どもの振り返りにも「課題が大造じいさんと残雪と分かれていたので、残雪を考えているとき頭が混乱した」と書かれてい。課題作りの際、単元全体の課題である「大造じいさんの気持ちの移り変わりを考えよう」に着目させ「残雪の行動は大造じいさんの目から見てそう写った」という視点をはっきりさせる必要があった。

これからの課題作りでは、視点をきちんと決めようと子どもたちと話し合った。この話し合いで、次の課題作りのめあてが決まった。学習全体の振り返りでは、作った課題は学習を深めるのによかったと答えている。「ぼくの課題は採用してもらえなかったけれど、みんなで知恵をふりしぼってどんどん解決してよかった」「何度も言うようだけど、課題があってこそ、話し合いができて深まる」という記述からも伺える。不十分な課題でも自分たちの課題だと意識することが意欲につながると考える。教師は、より質の高い課題作りを支援していかなければならない。

(2) 学習方法は、学習を深めるのに有効であったか。

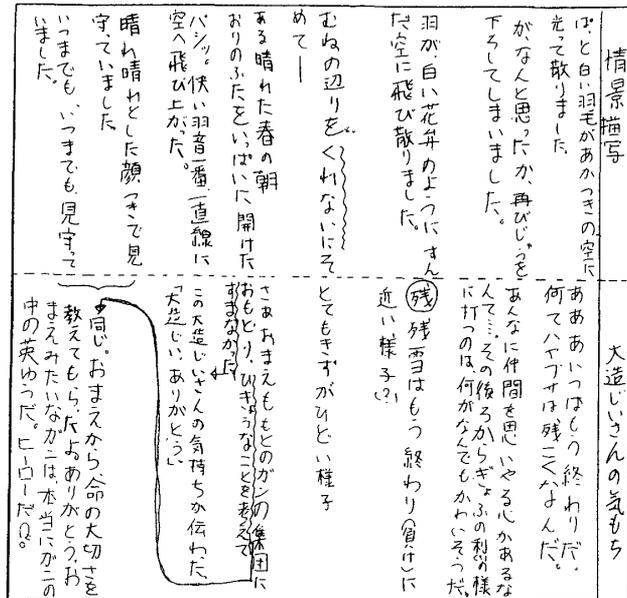
学習方法①…「大造じいさんの立場から読んでいこう。」は、本単元を読み深めるうえで基本的な視点であるが、場面によってはあいまいになった。子どもが明確に意識していれば、さらに読みが深まったのではないかと考える。

学習方法②…情景描写から気持ちを考える方法である。各場面でたくさん情景描写を見つけ、同じ言葉が繰り返し使われていることにも気づいた。「厳しい自然の中での大造じいさんと残雪の心の結び付きが、1本の映画を見ているように目の前に浮かんでくる物語でした」という感想があった。情景描写に着目することで、さらに、読みは深まり広がる。また、作者の表現の工夫にもかかわるものなので大切にしていきたい。

学習方法③…呼び方の変化は、大造じいさんの気持ちが端的に表されている。子どもたちにとって、大造じいさんの気持ちの変化を理解しやすい方法であったと考える。

学習方法④…学習方法①～③を考え、両者の行動をノートにまとめた。多くの子どもは、よかったと述べているが、「よく分からなかった」と言う者もいる。まとめる視点がはっきりしていないと難しい。「ひとり学習」は、一人一人の実態に左右される。一斉学習の中で「ひとり学習」の力をつけさせていきたい。

本単元では、②③④が有効であったと考える。学習方法は、課題解決のために吟味されなければならない。そのためには、まず、教師が多様な学習方法を知る必要がある。



(ワークシート例)